

SFT 日伯柔道交流オンラインイベント  
林 大使挨拶(3月9日 19:00～)

ブラジルの皆さん、こんばんは。  
日本の皆さん、おはようございます。  
駐ブラジル日本国大使の林禎二です。  
本日は、日伯柔道オンラインイベントの開催誠にありがとうございます。

今回のイベント開催にご尽力いただいた、シルビオ・ボルジェス会長をはじめとしたブラジル柔道連盟の皆さん、そして、山下泰裕会長をはじめとした全日本柔道連盟の皆さんに深く感謝申し上げます。

日本とブラジルは「スポーツ協力に関する覚書」を締結し、スポーツ分野の協力と交流を進めています。特に柔道に関しては、日本とブラジルは特別な関係があります。個別のスポーツとしてはじめて、2国間で「柔道協力に関する覚書」を2020年2月に締結しましたし、オリンピック東京大会では、藤井裕子さんがブラジル柔道男子監督を務めました。

柔道は、日本発祥のスポーツではありますが、競技人口で、ブラジルは世界最多を誇ると言われています。柔道は、強靱な肉体を育み、相手を倒す技を身につけるだけでなく、相手への尊敬や礼節をはじめとした内面を磨くことも目的にしており、その教育的効果についても高く評価されています。

日本は、ブラジル柔道連盟の協力のもと、ブラジルの学校カリキュラムの中に柔道が組み込まれるよう、ブラジルの指導者を日本に招聘したり、日本の指導者をブラジルに派遣したりするなど、必要な協力を行ってきました。

本年は対面での交流を実現させたかったのですが、現下の新型コロナの影響により、昨年同様オンラインで交流となってしまいました。残念ではありますが、オンラインで実施することで、より多くのブラジルの柔道の指導者が、日本の柔道の指導方法について学ぶメリットもあります。

本日の岡田弘隆先生による指導をはじめ、全日本柔道連盟は様々な柔道指導の素材を集めていただきました。

柔道の父、加納治五郎先生の言葉に「自他共栄」という言葉があります。相手に対し、敬意、感謝をすることで信頼し合い、助け合う心を育み、己だけでなく他人と共に栄えていこうという意味です。

日本国大使館は、日本とブラジルの柔道の交流やブラジルの公教育への柔道の導入について、引き続き協力し、日本とブラジルが「自他共栄」の関係になることを目指していきたいと思えます。

ありがとうございました。